

発行日：平成30年 6月 5日

発行者：今村証券株式会社

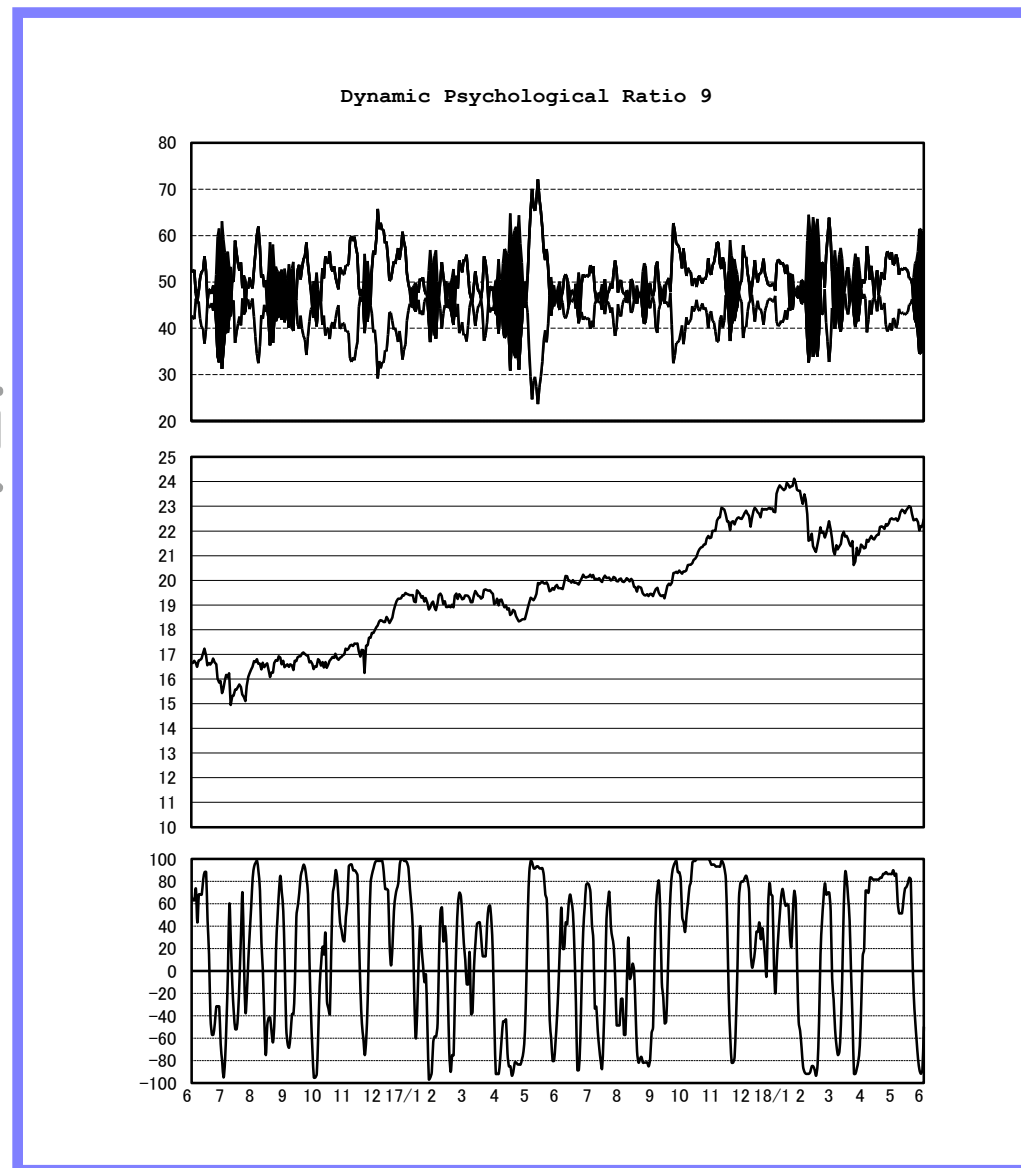
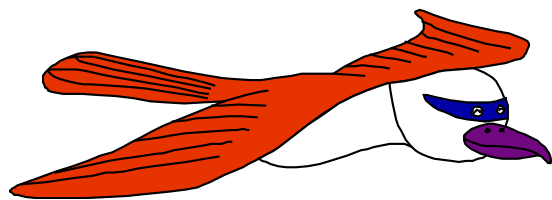
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

制作責任者：営業業務部 調査課

情報シャトル特急便

第621号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
下図はRCI（9日ベース）で、-80%ラインを上につき抜け→買い場
80%ラインを下につき抜け→売り場

大所高所

イタリアなど南欧諸国のEU離脱問題がクローズアップされて、世界のマーケットを震撼させている。ギリシャ危機の時は、西欧諸国のギリシャ文明についての尊敬の念が強いから（現在の西欧諸国の思想はギリシャに源がある）、結局諸国はギリシャに歩み寄って円満に解決するだろう、と考えたが、その通りになった。

今回のイタリアについても、かつての母体ローマ帝国が、フランスなど大半のEU加盟国をその支配下に置いて、非文明的蛮族から近代的な文明へと導いた歴史がある。その点ではギリシャとかなり良く似ている。ただ、ドイツに関してはローマ帝国の歴史を通じて、ずっとその敵対勢力として行動し、その衰亡の基を作ったという歴史を持つ。イタリアのドイツを中心とするEUに対する反感も、そのような歴史を背景として考えると興味深い。

W. S. チャーチルの「第二次世界大戦」という回顧録には、イタリアがドイツ枢軸国側に立って戦った経緯が詳しく書かれている。その立場はかなり受身的で、ムッソリーニに引っ張られた結果のようでもあるのだが、結局、英米を中心とする連合国によって開放され現在に至っている。その英米が共にEU加盟国ではないことも、今回の混乱に関係があるのかもしれない。

(B I S)

ただ一筋

日経平均株価は3月26日20,347円の安値以降、海外投資家の買い戻しを中心とした戻りで、23,000円の大台を達成した。しかし、再び、イタリア、スペインの政局不安からの債券急落や、二転三転の米朝首脳会談など海外発のリスクに揺さぶられている状況だ。ただ、8日のメジャーSQ、12日開催が確実視されている米朝首脳会談を大きな波乱なく通過出来れば、今年の後半相場のスタート台に立つことができるだろう。

そこで注目しておきたいイベントとして、①6月下旬に集中する株主総会、②7月下旬からの第一四半期決算の発表、③8月の日中平和友好条約締結40周年、④9月の自民党総裁選挙を挙げたい。

これらを視野に入れて物色動向を見定めることが大切だろう。

- ①では、存在感が高まっているアクティビスト（物言う株主）に狙われる企業を、
 - ②では、保守的すぎた業績予想の上方修正企業を、
 - ③では、中国が輸入拡大から関税引き下げをする化粧品、衣料、農産物などの消費関連企業を、
 - ④では、安倍3選を意識した積極財政政策関連企業を、
- それぞれ注目していきたい。

（三感王）

当たり前見参

ビリーズブートキャンプ、コアリズム、レッグマジック、ライザップ、ワンダーコア…ひとつくらいは耳にしたことがあるのではないのでしょうか！？ 個人的にいろいろと試したが長続きしなかった…

いま、世界中で健康ブームが起きている。国内でも、フィットネスクラブ業界の業績が好調だ。特に「女性専用」や「シニア層向け」など、ターゲットを絞って他社との差別化を図っている企業の利益率が高い。これまでは24時間営業といえばコンビニの代名詞のようだったが、最近では24時間営業のスポーツジムが増えてきているらしい。

5月29日、東京証券取引所が、電気で筋肉を刺激するトレーニング機器「シックスパッド」などを販売するMTG(7806)の新規上場を承認した。シックスパッドは某有名サッカー選手が広告塔となっており、個人的にシックスパッドを買おうかどうか凄く迷っている。上場は7月10日を予定、上場後の株価に注目したい。

(十月桜)

中 堅 の 視 座

決算発表シーズンが終わり、海外情勢によって日本株式は乱高下を繰り返しています。そのような相場環境の中で資生堂などの内需株は堅調に推移しています。

そこで、同じ内需株として北の達人コーポレーション (2930) に注目です。北の快適工房という化粧品や食品の通信販売を中心に収益を上げている企業で、2019年2月期は営業利益73%増予想としています。この好業績の裏には主力のカイテキオリゴだけではなく、流行を追わずニッチな分野でトップシェアを築いている点が挙げられます。アトピーやニキビなど大企業が入りにくい10~20億円規模の小型市場でシェアを勝ち取ることで、安定した収益を上げているのです。またインバウンド需要が高いことも、さらなる成長に期待ができる点です。

同社は札幌アンビシャス市場での新規上場から東証に市場変更を行いました。そこで現在札幌市場に上場し、有名経営者である松本晃氏が新たに最高執行責任者に就任するRIZAPグループ (2928) にも注目です。

(γ -GTP73)

きらきら星

第71回カンヌ国際映画祭でパルムドール賞を獲得した「万引き家族」を観てきた。年老いた親の年金をあてにして生活し、足りない分は子供に万引きをさせて生活をするというなんとも常識では考えられない作品ではあるが、家族とは何かを考えさせられた。血の繋がりはあるが心が通わない親子より、血の繋がりはないがそれ以上に強いきずなで結ばれている家族。昨今新聞でも目にする親の年金をあてにして亡くなったことも隠す子供、子育て放棄・子供の虐待なども描かれ、現代社会に問題を投げかけているのではないか。他人の集まりだが三世代が同居する家族はいいな、と心が温かくなった。

しかし、現実には家族のあり方が多様化することで核家族化、単身化が進み、1つの家に複数世代が暮らす事が当たり前ではなくなってきた。そこで家主向けに家賃債務保証などを行っている会社で、大和リビングなどと取引があるイントラスト(7191)に注目している。単身や若い世帯が増えることでマンション・アパート需要が増えるが、家主としては借り手の信用力に不安を感じるだろう。賃貸保証の分野には今後も成長余地があると考える。

(紫陽花)

アナログの俯瞰

今年も今月で早や折り返しを迎えようとしている。日本の株式市場は干支の言われのごとく、良くも悪くも荒い相場が続いている。ほんとに今年は一筋縄ではいかない。ここ最近はのりりくらしながら活気なき戻り歩調の展開となっているが、当面、日経平均は 22,500 円 ± 500 円というところか。

なんだかんだ言いながらも 6 月 12 日に米朝首脳会談開催の運びとなった。雰囲気はどうあれ、決裂しないことだけを祈りたい。また、同日とその翌日に米 FOMC が開かれる。こちらは金利引き上げ濃厚の模様。そして最大の懸念材料としては 8 日の G7 首脳会議でも議題に挙がるであろう米中貿易摩擦問題。世界の貿易摩擦問題へと発展しそうな雰囲気が相場参加者をやや委縮させる。これからもトランプ大統領の、ある意味掌の上で踊らされるような尚且つ予測不能な展開になるのかと思うとなんか腹立たしいが、現実を踏まえて当面は内需株に目を向けるべきか。

今期大幅増益予想の東海カーボン (5301) を押し目狙いで、そろそろ動く?! 健康食品の北の達人コーポレーション (2930) とネット投稿監視のイー・ガーディアン (6050)、買取屋の S O U (9270)。

(松くい虫・金食い虫・エヘン虫、飼い過ぎ注意! クレイジーゲーマー)

アナリストによる北陸企業便り

(織田真由美)

＜北陸電気工業＞

2018年3月期連結業績は3期ぶりの増収、大幅増益。堅調な世界経済を背景に総じて需要が増加、注力する自動車向けが前の期に比べて36%増と拡大、売上高に占める割合は初めて4割を突破した。

一方、四半期ベースで見ると、情報・通信機器向けの第4四半期会計期間の売上高が第3四半期に比べ大幅減少、タブレットの新製品需要が一巡し、携帯情報端末の低迷が要因だ。

この流れの中、今期の業績予想は減収減益見通し。減少傾向が続くAV向けや情報・通信機器向けは新規案件を見込めず、大幅な減少見通しだ。一方、自動車向けは前期比5%増、家電機器向けは同24%増、産業機器向けは同3%増見通しと堅調な伸びを見込む。ただ、部材の調達が逼迫しており、全体の売上高は同8.7%減の400億円程度の想定だ。利益については、減収要因に加え人件費や運送費などの固定費増加が見込まれ、営業減益見通し。ただ、AV、情報・通信機器向けについてかなり慎重な姿勢を保持していることから、スポット的な受注が入れば、上ぶれ余地もありそうだ。

なお、今期の想定為替レートは1ドル＝106円。為替感応度は1円の円高で1億円程度の利益押し下げ要因となる。

今期業績見通しには上ぶれ余地もありそうだが、不透明感が強く、足元の株価は妥当な水準と考えられる。

” 僧 中 線 罫 ”

週足



日足



出所：ブルームバーグ

週明けの日経平均株価は、予想を上回る米5月雇用統計の発表を好感し304円高の急反発となった。南欧の政治リスクや自動車の関税引き上げなどの通商リスクで一旦下押しを入れたが13週移動平均線（6月4日現在22,075円）を割らず、再び23,000円を試す展開になるだろう。今週末はメジャーS&Pがあり、来週の6月12日は初の米朝主脳会談が行われる。目まぐるしく変わる世界情勢だが、好業績銘柄に的を絞って強気で相場に対処したい。

4004 昭和電工

鉄スクラップを溶かす電気炉に使う「黒鉛電極」の価格上昇などで、2018年12月期の会社予想は、売上高は19.8%増、営業利益は1,370億円の76.1%増。レポート会社からは今期営業利益は1,600億円を超えるとの見方も出され、その場合のEPSは会社予想577円が700円超になると試算出来るようだ。株価で先を走る東海カーボン、日本カーボンは今年の高値を更新中。出遅れの昭和電工も1月高値の5,480円が見えてきたところまで戻してきた。黒鉛電極はEV電池にも供給されるなど、需給逼迫からの追加値上げで、黒鉛電極の大相場発展に期待したい。

(ICHI)

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.1799% (税込) (1.1799% に相当する金額が 2,565 円未満の場合は 2,565 円 (税込)) の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。